

◆◆◆霜月◆◆◆

■ 11月の異名は「霜月」。

霜月と聞いて私は真っ先に、三年生の国語教科書に載っている「モチモチの木」というお話のクライマックス、大好きな場面を思い出すのです。

「医者様を呼ばなくっちゃ。」

豆太は、小犬みたいに体を丸めて、表戸を体でふっとばして走り出した。

ねまきのまんま。裸足で。半道もあるふもとの村まで——。

外はすごい星で、月も出ていた。峠の下りの坂道は、一面の真っ白い霜で雪みたいだった。霜が足にかみついた。足からは血が出た。

豆太は泣き泣き走った。痛くて、寒くて、こわかったからなあ。

でも、大好きなじさまの死んじまうほうがもっとこわかったから、泣き泣きふもとの医者様へ走った。



豆太は物語の主人公。五つになったのに、夜になるとこわくて一人で便所に行けない。そんな臆病な豆太でしたが、ある晩、一緒に暮らしている大好きな、大切なじさまが病気で苦しんでいるのを目の当たりにして医師様のもとに走り出す。元気になったじさまは豆太に「自分で自分を弱虫だなんて思うな。人間、やさしささえあれば、やらなきやならねえことは、きっとやるもんだ」と語りかけます…。豆太の優しさに灯がとり勇気が発動したのが「霜月」二十日の晩の出来事でした。

■ 今日から霜月。

そう呼ばれるようになった由来については次のような説があります。

- ▼霜降り月、霜降月（しもふりつき）が省略されて「霜月（しもつき）」に転じた。
- ▼満ちた数字である十を上月とし、それに対して下月（しもつき）になった。
- ▼その年の収穫を感謝する意味を持つ「食物月（をしものつき）」が省略された。

いずれもなるほど、です。

南風の地に霜がおりる日がくるのはいつごろになるでしょう。

今週末の文化祭をひかえ、子どもたちと先生方は今日も精いっぱい準備をすすめます。